

## 第1回開建高校 運営指導委員会 会議 摘録

<日時>

令和4年10月6日(木) 15:00~17:00

<出席者>

委員：京都大学理事 野崎治子氏  
龍谷大学入試部・高大連携推進室事務部長 岡田雄介氏  
株式会社MIYACO 人材・教育事業ディレクター  
U35-KYOTOプロジェクトマネージャー 仲田匡志氏  
株式会社ワコールホールディングス社長室室長  
公益財団法人京都市生涯学習振興財団理事 久村剛史氏

教育委員会：菅野担当部長、辰巳担当課長

準備室：尾崎校長、宮越教頭、岸本主幹教諭、馬谷指導主事、山本係長、中村教諭、佐藤教諭、折笠教諭、松田教諭、白石

<次第>

### 1. 開会

開会の挨拶 教育委員会指導部 担当部長 菅野 明宏

出席者の紹介

### 2. 開建高校について

挨拶と学校構想説明 開建高校・塔南高校 校長 尾崎 嘉彦

学校概要説明 開建高校・塔南高校 教頭 宮越 敬記

### 3. 協議事項

「やってみたい」があふれる学校づくりと、「やってみる」への一歩を踏み出せる環境について

### 4. 閉会

閉会の挨拶 開建高校・塔南高校 校長 尾崎 嘉彦

<開建高校について>

委員 一市民として、開建高校にエネルギーを感じている。そもそも「普通科」とはなにか。ボリュームゾーンの普通科に属している生徒が自らの才能を気付いていける学びが、他の学校に広がることで、京都の学びが広がるという熱量、ポテンシャルを感じた。

「やってみたい」という気持ちがどこから、どうやって生まれるのかがポイントになる。また生徒の動機付けも、教育の提供者であると同時に主体性を持たせるというバランスが非常に難しく、ティーチングだけでなく、アンラーニング的な主体的な学びをどう生むかを、教員が体現していくことが非常に重要。

委員 「正解を教えるのではなく」という言葉について。生徒の辿り着いた解と、先生の解が異なった場合どうするのか。

心理的安全性のある学校というのはいいが、レジリエンシーを立て直すためになにができるのか。自己高揚感や成長の実感を高めるためには、プラス・マイナス両方のフィードバックが重要ではないか。

社会に出たら、**must**→**can**→**will** の順番で進む。体験を重ねないうちに **will** を見つけるのは難しいと思うので、「やりたいことがない」と言える寛容さはあった方がいい。

委員 心をほぐす仕組みが重要になると思う。協調出来ない子も、取り残さない教育を。自立している生徒は少し背中を押すと、どんどん前に進む。そうではない子をどうするか。

委員 フィードバックは、改善をするための指示ではないということを念頭に置いて、開建高校なりのフィードバックのグランドルールを作っては。

#### <協議事項>

○「やってみたい」気持ちをふくらませる

委員 海外へ行くチャンスがあるといい。若いうちに海外の人と触れ合って、違いを感じる。他者を分かることで初めて自分自身が分かり、そこから「やってみたい」気付きがあることも。

○「やってみる」の一步を踏み出す環境

委員 まずは、「やってみたい」を言葉に出せるような環境とそれをする文化。言った時に「いいんじゃない」「どうやったら出来るだろうね」など、気軽に話せる関係性と、否定ではなく肯定したり、受け止めて前向きに話せるようにして欲しい。また、「やらなくていい」という選択肢もあることを示すことが必要。

## 第2回開建高校 運営指導委員会 会議

<日時>

令和4年12月23日(金) 13:30~15:40

<出席者>

委員：京都大学理事 野崎治子氏  
龍谷大学入試部・高大連携推進室事務部長 岡田雄介氏  
株式会社MIYACO 人材・教育事業ディレクター  
U35-KYOTOプロジェクトマネージャー 仲田匡志氏  
株式会社ワコールホールディングス社長室室長  
公益財団法人京都市生涯学習振興財団理事 久村剛史氏

教育委員会：菅野担当部長、辰巳担当課長

準備室：尾崎校長、宮越教頭、岸本主幹教諭、山本係長、中村教諭、佐藤教諭、折笠教諭、  
松田教諭、吉田教諭、白石

<次第>

### 1. 開会

開会の挨拶 教育委員会指導部 担当部長 菅野 明宏  
出席者の紹介

### 2. 協議事項

生徒が「やってみたいを やってみる」を実現するために

### 3. 閉会

閉会の挨拶 開建高校・塔南高校 校長 尾崎 嘉彦

協議事項 生徒が「やってみたいを やってみる」を実現するために

<生徒の成長のストーリー>

委員 キャリアははしごではなく、ジャングルジム。上下するだけでなく、横の移動もある。高校生ぐらいだと、上がったりがったり、景色が変わることが、将来的にはいいように思う。

<生徒が成長をするための仕組みや仕掛け>

○未来デザインプログラム

委員 企業訪問はいろんな学びを得られるので、生徒の自由な学びを担保しながらも、その中のどこに学びをフォーカスするかを明確化することが重要。

質問することが目的ではなく、手段になればいい。もしくは質問しなければできないアウトプットを仕掛けるなど工夫をすると、生徒たちが一緒にこの時間を作っているんだという意識が生まれる。

## ○特別活動

委員 「個が輝く」をどう定義するか。個人が自らの力を発揮し、周りがある人の力を引き出せる状態がより輝きを増す状態ではないかと思う。それは、個人がどのような場面でパフォーマンスを発揮できるかを模索しながらということに加えて、もっと輝けるように周りがしていく状態が開建の目指す輝きではないか。

委員 現代は、ダイバシティではなくインクルージョンの時代。多様性を認め合うのではなく、個性を包摂して活かすことで、それがシナジーになっていく。インクルージョンという観点からの組織づくりという観点も持てるといい。インクルージョンが成功していくと、帰属意識が生まれてくる。

## <教職員のマインドセット>

委員 先生方も環境をつくる一員。生徒心得ではなく、開建高校にいるすべての人が心得るべきことなので、まずは生徒に教えるのではなく、背中で見せることが大切。

その上で、「傾聴」と「関心」と「共感」。

①「傾聴」は心に耳を傾ける。なぜその言葉が出てきたかを考える。

②関心は、生徒が関心をもったことに感心を持つ。

③共感は、やってみたいことの先にあるビジョンに共感する。大きな共感も小さな共感もある。

## 令和4年度 第1回塔南高等学校 学校運営協議会

1. 日時 令和4年5月11日(水) 15:00~17:00
2. 場所 京都市立塔南高等学校 AL-2・3教室
3. 出席者 理事(敬称略)
  - 天野広一 唐橋自治会連合会 会長【理事長】
  - 中江宏之 祥栄学区自治連合会 会長
  - 杉山勝美 京都市立塔南高等学校同窓会 会長
  - 中村 薫 京都市立祥栄小学校 校長
  - 石原凌河 龍谷大学政策学部 准教授
  - 宿野秀晴 一般社団法人 京都中小企業家同友会副代表理事  
Medico-tec 株式会社代表取締役
  - 山田正志 一般社団法人 京都中小企業家同友会南支部幹事  
有限会社山田木工所代表取締役社長
  - 東 憲明 南区役所 副所長(地域力推進室長 区民部長)オブザーバー : 高等学校コンソーシアム京都、京都市教育委員会  
塔南高等学校 : 尾崎校長、中村副校長、宮越教頭、山下事務長、岸本主幹教諭 他  
京都市教育委員会 : 菅野指導部担当部長、馬谷指導主事 他
4. 次第
  - 15:00 開会 天野理事長、菅野指導部担当部長 尾崎校長 挨拶
  - 15:15 報告Ⅰ 令和4年度 学校経営方針について
  - 報告Ⅱ 令和4年度 学校運営協議会について
  - 15:45 報告Ⅲ 学校評価部会より 学校評価アンケート結果報告  
地域協働部会より 未来デザインプログラム実施報告  
防災ボランティアリーダー育成について
  - 16:25 生徒発表 「地域と連携して活動する防災ボランティアリーダーの育成」
  - 16:35 意見交換 テーマ 「自ら学び自ら考える」課外での取組について
  - 17:00 尾崎校長挨拶 閉会

### 5. 報告の概要

#### 【報告Ⅰ】学校経営方針について

尾崎校長から、今年度の重点的な部分を中止に概要を説明。  
(質疑応答ののち、承認していただきました)

#### 【報告Ⅱ】学校運営協議会について

岸本主幹教諭から、学校運営協議会の役割や令和4年度年間スケジュール等について説明。

#### 【報告Ⅲ】

学校評価部会 令和3年度学校評価アンケート結果報告 小畑教諭  
地域協働部会 令和3年度未来デザインプログラム結果報告 松田賢教諭  
令和3年度防災ボランティアリーダーの育成について 伊藤教諭

## 6. 質疑応答

### 【報告Ⅰについて】

- 理事 「自ら学び自ら考える」ところでは留まらず「自ら行動する」ことも必要ではないか。自ら行動して学ぶ、その結果である失敗からも学び考えるまで、一つの学びのサイクルとして考えるのが重要では。
- 学校 あくまで高校生に分かり易いコンパクトな表現を心がけての言葉と理解して欲しい。授業も部活動も特別活動も自ら考え学ぶ力を養う機会として活用して欲しいと考えている。
- 理事 「10年後の自分の姿」を思い浮かべるということを先生方は現実的に捉えられているのか？未来予想が立てにくい世の中だが、まず立てなきゃいけないのは自分って何なのか？ということでは。
- 学校 卒業後の姿もなかなか描けない現実はある。新校では校内の教育活動だけではなく地域社会へ出て行って学ぶことへ繋がっていていると思う。
- 理事 生徒の可能性を伸ばし、卒業10年後の姿、生徒の可能性を伸ばすのはどうしたら伸びるのか、もう少し踏み込んでいった方が良いのでは？自分をしっかり把握する力を持って、それを伸ばしていくというステップを皆で考えていければよいかと思う。
- 理事 抽象的な目標から自分たちの目標を引っ張り出していく、具体的なものを出して欲しい。生徒とともに考えていくという方向性だが、生徒さんに対するアピールがあるかどうか心配。
- 理事 生徒さんたちの身体と心の健康を常に考えてあげて欲しい。人間的なところを忘れず、生徒さんの不安へのフォローは大人と教員の責任ではないか。頼ってきた生徒の話には乗ってあげられる暖かい学校であって欲しい。

### 【報告Ⅲについて】

- 理事 大学生にとっても有意義な機会であった。高校生が地域に出て行く時も主体性が重要になってくる。どんどん現場に出て行って地域と連携する取り組みが大切だと思う。被災地では自治体には専従の防災主任・防災主幹教諭を配置され、学校を挙げて防災を進めていく事例が増えている。塔南においても専従やカリキュラム面も含めて取り込んでいく必要はないだろうか。未来デザインプログラムも高大連携としては有意義な取り組みになっていると思うが、「働く」姿を学ぶという意味で企業・大学並列展開に矛盾が出ていないか。大学での「学び」についての問いか、職業人としての大学教授への問いかが混同されている感があり、どういう立ち位置でいくのかが明確にならない。「働く」と「学ぶ」の混同ではなく、相互補完的な取り組みにしていく方が望ましい形が作りやすいのではないか。
- 理事 やったことに対してどうだったかが返ってこないのが、やりがいがあったのか効果があったのかをぜひ知りたい。ふれあいコンサートも出演した生徒さんがどうだったかについても、地域とやり取りを増やしていく意識が高められていけば望ましいと考える。
- 学校 地域の方々の感想も聞かせていただければ幸いです。
- 理事 昨年度5名の生徒さんにきていただいた。課題として「質問力の向上」があげられていたので、区役所新採用職員との懇談の場を設けたところ、想定以上に生徒さんからの質問が増えた。できるだけ若い職員と話す場の時間を長くにとって、より生徒さんも主体的に話ができて、区役所職員にも良い刺激になっていくかと思う。
- 理事 林業に興味がある生徒が来てくれて、実際に府立大学林業に進学したことを聞き、「林業女子」を含む林業関係の何人かの方とつなげてあげて、交流が広がり、お役に立てたかなと嬉しく思った。
- 学校 未来デザインプログラムをきっかけに実際のキャリアデザインができた良い事例だと思う。今後もこういう事例が出てくるとありがたいと思う。
- 理事 校種は異なっても「学ぶ楽しさ」という文言は一緒だなと感じる。「分かる喜び」「できる楽しさ」と

という言葉は小学校でもよく使う。防災ボランティアリーダーについては、朝の登校時に小学生は東へ高校生は西へすれ違う、挨拶等はなかなか難しいが、いざその時災害が起こったら、子どもたちやお年寄りに対して高校生がどのように動くのか、そういうことを考えてもらえれば、子どもたちはとても安心できるのではないかと。何か困ったことがあった時、周囲に大人がいなくても制服を着たお兄ちゃんお姉ちゃんに助けを求めると子どもたちが考えられるような関係、高校の近くだけではなく、自宅近くや通学路も含め、そういった関係を作っていければ良いなと感じている。

理事 ICT 機器の活用については肯定的な評価が下がった点について保護者には ICT 機器の活用はどのようになさったのかが伝わっていないので、とりあえず回答されたので割合が減少したのではないかと。それが何なのかが分かればありがたい。単年度だけでなく、過年度も見られるとよい。スマホが原因なのか、何が原因かよくわからない。

理事 新学習指導要領をみんな理解しているのか？ 変わった中身が親にも子にも伝わっていないのではないかと。楽しく豊かに暮らすために働くし、そのための学びだと思う。

理事 アンケートの経年変化を時系列的に俯瞰できるようなまとめ方があれば、いろいろな相関関係も見えてきて、具体的な対策につながるのではないかと。

## 令和4年度 第2回塔南高等学校 学校運営協議会

1. 日時 令和4年11月8日(水) 15:00~17:00
2. 場所 京都市立塔南高等学校 AL-2・3教室
3. 出席者 理事(敬称略)
  - 天野広一 唐橋自治会連合会 会長【理事長】
  - 中江宏之 祥栄学区自治連合会 会長
  - 秦 恵子 京都市立塔南高等学校PTA 会長
  - 杉山勝美 京都市立塔南高等学校同窓会 会長
  - 中村 薫 京都市立祥栄小学校 校長
  - 長谷川 豊 京都市立八条中学校 校長
  - 宿野秀晴 一般社団法人 京都中小企業家同友会副代表理事  
Medico-tec 株式会社代表取締役
  - 山田正志 一般社団法人 京都中小企業家同友会南支部幹事  
有限会社山田木工所代表取締役社長
  - 東 憲明 南区役所 副所長(地域力推進室長 区民部長)オブザーバー : 高等学校コンソーシアム京都、京都市教育委員会  
塔南高等学校 : 尾崎校長、中村副校長、宮越教頭、山下事務長、岸本主幹教諭 他  
京都市教育委員会: 馬谷指導主事 他

4. 次第
  - 15:00 開会 天野理事長、尾崎校長 挨拶
  - 15:10 報告Ⅰ 令和4年度 第1回学校評価アンケートについて
  - 15:20 報告Ⅱ 令和4年度 未来デザインプログラムについて
  - 15:25 報告Ⅲ 防災ボランティアリーダーの取り組みについて
  - 15:40 報告Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについての質疑応答
  - 16:15 意見交換 テーマ 地域・社会と連携して取り組む活動のアイデア
  - 17:00 尾崎校長挨拶 閉会

### 5. 報告の概要

#### 【報告Ⅰ】第1回学校評価アンケートについて

小畑教諭から、6月に実施した学校評価アンケートについて、例年の項目を一部変更して、授業や学校生活全般に関する主体的な取り組みについて評価をいただくものとなっていることを中心に概要及び結果を報告。

#### 【報告Ⅱ】未来デザインプログラムについて

松田賢教諭から、今年度は普通科1年生へ対象を拡大した実施計画の報告、さらに高校1年生が作成したワークシートを資料として、対象生徒の事前学習のねらいについて報告。

#### 【報告Ⅲ】令和3年度防災ボランティアリーダーの取り組みについて

伊藤教諭から、今年度の活動内容についての報告。とくに今年度から初めて実施した活動として、水害からの避難訓練、文化祭防災イベント、防災登山について重点的に報告。さらに生徒が作成した避難所開設マニュアル動画を紹介。



## 6. 質疑応答

### 【報告Ⅰについて】

理事 「自ら学び自ら考える力を育むことができる授業が行われている」という問いで一番回答が多い「ややそう思う」という選択肢が厄介ではないか。これを続けていっても大きな変化はないのではないか。社会がどういうデータを受け入れているのかを肌感覚で知ることが必要ではないか。公教育の世界では同じ解を求める＝誘導している傾向が強いと感じる。これは多様性や個性を伸ばすことには繋がらない。企業は同じ解を求めていない。各企業がそれぞれ違う解を求めるからこそ社会は成り立っている。

学校 その問いで「そう思う」では30%程度。授業で正解ばかりを語り続けているのではないかという反省に立って、授業評価アンケートも実施している。

学校 今年度は開建高校の開校も見据えて、計画的に教員研修を実施している。具体的には、午後から全教職員で行う形で実施することをはじめ、授業研鑽週間などで問いから始める授業、対話・協働の授業について模索を続けている。まだ道半ばではあるが教員が生徒役となって取り組む形など工夫を凝らして年間通じて取り組んでいる。

学校 企業によって答えが違う、ということは先日校章デザインの件で話したパナソニックデザインの方からも「答えは一つではない、いろいろな答えがある」ということが重要と伺った。企業と教員の対話や交流を通して社会を感じながら、それをどう教育に活かしていくかを模索していきたい。

理事 今の教育はインプットだけでアウトプットの力が身につけていないのではないか。自分の個性をどうすればアウトプットできる、伝える力をどう授業の中で培うか、ぜひ取り組んでいって欲しい。

学校 授業も変わってきている実感がある。自分が見た中では、例えば国語の「山月記」の授業などは、自分が受けてきた授業からは大きく変わっている。外から見るとなかなか分からないとは思いますが、ぜひ授業も見ていただいてご指導いただけるとありがたい。

理事 昨年度、市教委から学校評価委員会検証委員会にあたりまして、天野会長にも学校の取り組みや授業を見ていただいて、ご意見をいただいた。古い学校ではあるが「キレイですね」と評価していただいた。特別なことはしていないが生徒の清掃活動等を見ていただいた。塔南高校も開建に移れば新しい施設をいかに使いこなすかを生徒・教職員ともに考えていく必要に迫られると思う。

理事 学校評価とは直接には繋がらないが、塔南高校教育みらい科2年生が祥栄小学校で行った現場実習の中で実習を担当した担任が「生徒が授業をしっかり準備して取り組んでいた」と評価していた。もちろん高校での指導もあっただろうが、教室に立った時、生徒自身が実際に小学生を見ていろいろ工夫し、生徒が考えて授業をしていたということではないか。昨年度と比較しても特にしっかり工夫して授業していたと聞いている。

理事 高校生は、親になかなか学校のことを話さない。コロナ禍もあって一般の保護者の方が実際に学校を訪れる機会が大変少ない中で、この学校評価アンケートを回答するのが現実なので「ややそう思う」としか答えられないのではないか。その点から「ややそう思う」という選択肢がなく「そう思う・思わない」だけでアンケートを実施すると無回答・白紙が増えるのではないか。小学生・中学生の保護者よりアンケート回答は難しいと感じた。

### 【報告Ⅱについて】

理事 質問力を高める、生きていく上でいい力が付くのではないかと思う。10年後の社会を予測するというのも大事。3～5年後を見通すことすら難しいが、歴史は繰り返すということで過去を知るために本を読むことも大事ではないか。

### 【報告Ⅲについて】

- 理事 避難所開設の実務を塔南高校で積極的にやっておられるのに感心した。祥栄小学校内に避難所に関する資料があることも知らなかったので、せめて各町内の防災担当の方には知ってもらいたいと思っている。
- 理事 生徒が熱心に取り組んでいられて、地域の人々とも連携していると聞いている。動画もたいへんコンパクトに出来ていて、南区の職員にも見ておいてもらいたいと使わせてもらっている。南区役所のHPにもアップしている。
- 学校 近隣の小中学校等で、防災に関する動画を作ろうというのであれば、出向いて協力していきたいと考えている。
- 理事 公園にも防災設備が配置されていると伺いました。カレー作り等、地域の方々を巻き込んで、高校生と一緒に楽しんで取り組んでいく。その中で防災についての知識を深め合うのが良いと思う。
- 理事 町内の防災部長にも動画を見せた。現在の課題は、どこに何が入っているか⇒学校に保管を頼っているという状態。災害時に実際に使う時、誰が鍵を持っているか、必要な時にすぐ開けられるのかという点。鍵の複数持ちができないか等考えている。
- 理事 ボランティアは見返りが無い。自分たちがやっていたJRCの精神に近いものがあると感動している。勉強やる意欲があるのが1年と3年。中だるみになってしまう2年をどうにかしたいなということをお願いしたい。

### 【意見交換】地域・社会と連携して取り組む活動のアイデア

- ・地域貢献として、今ある南区一斉ボランティアを継続していくとか、教育みらい科が取り組んできた地域の児童と交流の取り組みを、今後も何らかの形で継続していければという意見があった。
- ・南区は工場が多く、世界で唯一の技術を持つ工場もあると伺った。そういった技術に触れるという試みもできれば面白いのではないかな。
- ・たとえば観光客の案内ボランティア、吉祥院にもユネスコの無形文化遺産に登録された六斎念仏などの紹介を通して、地域のことを知っていくことを発信していく。その中で地域とのコミュニケーションを作っていく。
- ・ボランティアでも、例えば運動会とかクリスマスツリーを一から作るとか、地域の中で一緒に取り組んでいくことをきっかけにできないか。
- ・高校生がボランティアをやっていくとすれば、例えば小学生の見守りなど地域の力の一部として高校生が活動していくこと、そしてそれを継続していくことができれば、地域としても盛り上がるし、応援していく気持ちもある。
- ・唐橋学区の特色として、幼稚園・小学校・中学校・高校と全ての校種がそろそろ。交流をすることで縦のつながりを活かした地域とのイベントなどが話題の中心になった。挨拶運動を地域全体で取り組むことで地域全体が活性化しているのではないかなという意見があった。
- ・学校間の交流だけではなく、授業参観とか学校の中ではどうしているのかを町内の人に見てもらえるような機会を作っても良いのではないかな。
- ・「大運動大会」とか地域みんなでのイベント、例えば「お花見」「パレード」「音楽会」「フリーマーケット」「スタンプラリー」などいろいろ考えられる。
- ・今行われている「清掃活動」も今後継続していきたい。
- ・シンプルに「みんなでお話しをする会」など、地域と一緒に「人との交流」がより多くできるようになれば良いと思う。

地域協働コーディネーターの役割および  
地域協働コーディネーター創出に向けた動きについて

◎地域協働コーディネーターの役割

**【軸①生徒が夢中になれる課外活動の推進】**

生徒の「やってみたい」を引き出す工夫や、「やってみたい」ことを実現する際の適切な助言・支援を行う。

**〈学校と地域をつなぐ窓口業務〉**

- (1)学校の中では経験できない、実践的なプログラム等の課外活動に参加したいと考えている生徒と学外団体とのマッチング
- (2)教員とのキャリア相談(生徒に〇〇のような力を、学びを得てほしいと考えているが、適した取組が学外にないだろうか?などの相談を想定)

**〈コミュニティの具体的運用〉**

- (1)学校担当部署・教員と地域協働コーディネーターによる共同管理のもと、生徒や教員が気軽に相談できるシステムを整える。  
→相談された内容について、コミュニティ内の有識者の連絡先を相談者に伝達し、その後は個人間やり取り/もしくは校内にお越しいただき、対話の場を作る
- (2)コミュニティ内の多様なメンバーが学内にいる日程を事前に示し、基本的に予約制として相談時間を設け、運用する。(大学のキャリアカウンセラー等の運用を参考)

**【軸②教育課程内の活動に対する助言・支援】**

地域企業・大学等と学校が連携した教育活動を学校が企画するうえで、双方にとって有意義かつ持続可能な活動となるように適切な助言・支援を行う。

**〈地域と連携し、開建の教育を最大化する〉**

- (1)授業の企画・運営の助言・支援
  - ・授業が学校と地域組織の双方に利益となる企画となるよう、助言・支援を行う
  - ・学校が企画する連携活動の主旨を理解し、実際に連携を行う企業・大学等の開拓および連携先との連絡・調整を行う。
  - ・連携活動が持続可能なものとなるよう、学校での総括に同席し、次年度への改善点等を引き継ぐ。
- (2)地域協働コミュニティの管理
  - ・コーディネーター自身もコミュニティの一員として参加し、コミュニティ拡大に取り組む
  - ・寄せられる相談に応じて、誰が答えるのがよいのか、どのように答えるのがよいのかなどを教員と連携しながら対応する。

◎R6 年度までの地域協働コーディネーターに依頼する業務の想定

		R5	R6
依頼する業務内容	軸①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動相談窓口の運用 ⇒「やってみたい」を探す生徒との面談を経て、興味・関心に沿った課外活動に参加できるよう支援する。</li> <li>・教育課程内外において開建高校と連携する、「開建高校地域協働コミュニティ」の組織化を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外相談窓口の柔軟な運用 ⇒多様な業種・職種の方が窓口業務を行えるように運用する（自走化に向けた取り組み）</li> <li>・「開建高校地域協働コミュニティ」の運用を支援する。</li> </ul>
	軸②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来デザインプログラム（仮称）及び京都探究において、想定した取り組みが実現できるよう、連携する組織との連絡調整を行う。</li> <li>・上記2つの教育活動が持続的な活動とできるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記2つの教育活動が実施できるよう支援する。</li> <li>・左記2つの教育活動が持続的な活動とできるよう支援する。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働コーディネーター配置における成果報告を補助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働コーディネーター配置における成果報告を補助する。</li> </ul>

◎現時点で想定する連携活動と、その際の地域協働コーディネーターの動き

	R5 9月 未来デザインプログラム（仮称） （1年：ルミノバージョンI内）	R5 10月～2月 京都探究 （1年協創I内）
連携活動内容	<p>実際に地域の企業・大学等を訪問し、それぞれの訪問先がどのような理念や信念を掲げて業務にあたっているのかについて聞き取ってくる。</p> <p>聞き取った内容をまとめ、他者に紹介する。</p> <p>※ルミノバージョンIで培った、「探索・」「分析」のスキルを各訪問先での取材、及び取材結果のまとめに活用する。</p>	<p>地域の企業・大学等から「考える枠組み」をいただき、その枠組みの中で、探究的な活動を実施する。</p> <p>最終的には枠組みを提供いただいた団体へ向けて高校生が自分たちなりの答え・まとめを返答する。</p>
コーディネーターの動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>①上記の活動に意義を感じ、協力いただける訪問先の開拓及び活動内容の連絡・調整</li> <li>②学校内で行う事前学習等の具体的な内容等への助言</li> <li>③連携した活動当日の引率、連絡</li> <li>④活動後の総括、改善点等の引継</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①上記の活動に意義を感じ、並走していただける連携先の開拓・及び活動内容等の連絡・調整</li> <li>②連携した活動当日の運営</li> <li>③高校生の探究的活動の見守りと支援</li> <li>④活動後の総括、改善点等の引継</li> </ul>

◎地域協働コーディネーター創出に向けた動き

<p>令和 4 年度</p>	<p>○仲田様、林様に依頼し、地域協働コーディネーターの業務マニュアル(コーディネーターの方への具体的な依頼内容)作りに着手する。(11月～3月)</p> <p>開建高校で想定中の連携活動のビジョンを共有し、</p> <p>①連携する組織との関係性をどう作っていくのか</p> <p>⇒2月10日実施の「未来デザインプログラム振り返り会」にてある程度関係性は築けた</p> <p>②連携した活動をどのように持続させていくのか</p> <p>⇒令和5年度重点課題。</p> <p>③連携活動の成果を、どのように地域に発信していくのか</p> <p>(地域が一体となって教育活動を進めていく地域性を醸成するためにどうしていくのか)</p> <p>⇒令和5年度重点課題。</p> <p>などについて意見を交換しながら、次年度以降の地域協働コーディネーターの業務マニュアル作りを行う。</p> <p>○マニュアル作りと並行し、実際に開建高校のコーディネーターを務める人材(組織)の模索、選定を行う。</p>
----------------	---

◎具体的な業務(マニュアル記載内容)

勤務時間:週 20 時間(業務内容により、勤務日等はフレキシブルに運用する)

学校勤務:週 2～3 回程度(終日:2日 半日:1日)

⇒木曜の 3、4 限にルミノベーション I、金曜日 5、6 限に協創 I が設置されることを想定している。

水曜日に校内での教育活動の打ち合わせ等を行い、木・金曜日には適宜打ち合わせ、未来デザインプログラム等、学外組織と連携した活動への帯同を含め、生徒の様子を確認できる日程として設定したい。

学校勤務日の業務内容:

- ①教育活動に関する打ち合わせ(適宜)
- ②教育活動の参観
- ③課外活動相談窓口業務(16:30～18:00)
- ⇒予約簿の作成等の細かい運用は今後検討
- ④連携する組織との連絡・調整

学校勤務日以外の(突発的な)業務内容:

- ⑤地域と連携した校外での教育活動への帯同
- ⑥連携する組織との打ち合わせ等
- ⑦文科省指定事業におけるフォーラム等への参加

# 「やってみたいをやる」課外活動の推進（地域協働コーディネーターの役割と配置のイメージ）

## 地域協働コーディネーターの役割

### 【① 生徒が夢中になれる課外活動の推進】

・生徒の「やってみたい」を引き出す工夫や、「やってみたい」ことを実現する際の適切な助言・支援を行う。

### 【② 教育課程内の活動に対する助言・支援】

・地域企業・大学等と学校が連携した活動（以下、「連携活動」とする）を学校が企画するうえで、双方にとって有意義かつ持続可能な活動となるように適切な助言・支援を行う。

## コーディネーター配置のイメージ

### 地域協働コーディネーターの具体的業務

〈地域と連携し、開建の教育を最大化する〉→役割②に相当

#### (1) 授業の企画・運営の助言・支援

- ・授業が学校と地域組織の双方に利益となる企画となるよう、助言・支援を行う
- ・学校が企画する連携活動の主旨を理解し、実際に連携を行う企業・大学等の開拓および連携先との連絡・調整を行う。
- ・連携活動が持続可能なものとなるよう、学校での総括に同席し、次年度への改善点等を引き継ぐ。

#### (2) 地域協働コミュニティの管理

- ・コーディネーター自身もコミュニティの一員として参加し、コミュニティ拡大に取り組む
- ・寄せられる相談に応じて、誰が答えるのがよいのか、どのように答えるのがよいのかなどを教員と連携しながら対応する。

京都市立開建高等学校

魅力あふれる京都

地域協働  
コーディネーター  
|  
地域協働  
コミュニティ  
(コーディネーターも属する)

### 〈コミュニティ作成の意義〉

- ・多様な業種・職種の方との関わりが可能になり、生徒の「やってみたい」ことを満たす可能性が高い。
- ・文科省の予算がなくなった後でも、学校との多様な関わりが生まれ、持続的に生徒の「やってみたい」を応援する活動が行える。

### 〈構成団体(想定)〉

- ・U35京都、中小企業家同友会メンバー
- ・経済団体関係(京都商工会議所, 京都経営者協会, 京都経済同友会, 京都工業会等)

### 地域協働コミュニティの具体的業務

〈学校と地域をつなぐ窓口業務〉  
→役割①に相当

- (1) 学校の中では経験できない、実践的なプログラム等の課外活動に参加したいと考えている生徒と学外団体とのマッチング
- (2) 教員とのキャリア相談(生徒に〇〇のような力を、学びを得てほしいと考えているが、適した取組が学外にないだろうか?などの相談を想定)

### 〈コミュニティの具体的運用〉

- (1) 学校担当部署・教員と地域協働コーディネーターによる共同管理のもと、生徒や教員が気軽に相談できるシステムを整える。  
→相談された内容について、コミュニティ内の有識者の連絡先を相談者に伝達し、その後は個人間やり取り/もしくは校内にお越しいただき、対話の場を作る
- (2) コミュニティ内の多様なメンバーが学内にいる日程を事前に示し、基本的に予約制として相談時間を設け、運用する。(大学のキャリアカウンセラー等の運用を参考)